

第5期総合計画推進管理評価調書について

1 第5期総合計画：重点施策推進管理評価調書【重点項目】

①「重点項目」

重点項目の内容と目指す方向を記載しています。

②「重点施策」(分野)

重点項目に位置付けられた分野及び施策、その内容を記載しています。

③「推進状況」

各重点施策の推進状況についての評価結果を記載しています。

推進状況の内容により1～5点で区分しており、一番下に平均値を算出しています。なお、28年度及びその右側に27年度の評価結果を記載し、前年との比較をしています。

④「重点項目の推進状況の評価」

上記の推進状況の平均値により、重点項目の評価を行います。評価については、その数値により「A 順調に進んでいる」「B 概ね順調に進んでいる」「C 推進が必要」「D 更なる推進が必要」の4段階としています。

⑤「重点項目の推進状況」

重点項目の推進状況に対してのコメントを記載しています。

⑥「推進委員会評価結果」

委員会で取りまとめた評価結果を記載します。

2 第5期総合計画：重点施策推進管理評価調書【施策（個表）】

①「施策」

重点施策を記載しています。

②「担当部署」

「4 施策の推進に向けて取り組んだ事務事業」を実施した部署を記載しています。

③「1-1 施策の進捗を把握する指標」

評価を行う際に客観的な判断をするための「ものさし」として、施策ごとに数値を設けています。なお、指標を担当していない部署は、空欄となります。

④「1-2 指標の推移」

一番左側の数値を基準として、26年度からの実績を記載しています。なお、指標を担当していない部署は、空欄となります。

⑤「1-3 指標の推移に対する分析」

成果数値の状況を分析し、その内容を記載しています。なお、指標を担当していない部署は、空欄となります。

⑥ 「2 施策の推進に向けた現在の取組状況と今後」

・ 施策の推進に向けた現在の取組状況

各施策について、事務事業の取組状況を踏まえ「5 順調に進んでいる」「4 一定程度進んでいる」「3 遅れがある」「2 着手した程度」「1 未着手」の5段階で評価しています。

・ 施策を推進するうえでの課題や必要となる取組

現在抱えている課題の解消に向けた取組や施策をより推進するために必要な取組について記載しています。

⑦ 「3 総合評価」

・ 1次評価

今後の施策の方向性等について「担当部署」の評価を記載しています。

・ 2次評価

今後の施策の方向性等について「企画部署」の評価を記載しています。

⑧ 「4 施策の推進に向けて取り組んだ事務事業」

「担当部署」が施策の推進に向けて取り組んだ事務事業の名前、内容及び実績額について記載しています。

第5期総合計画：重点施策推進管理評価調書【重点項目1】

1

評価年度	平成28年度
------	--------

重点項目	1 産業の振興と雇用の場が広がるまちづくり
	各産業の経営の安定を促進するとともに、それぞれの産業の連携をはかり、産業の振興と雇用の場づくりを進めます。

3

重点施策	分野	施策	施策の内容	28年度 評価	27年度 評価	担当課	計画書 掲載頁
	2	農業[経営]	農業経営の安定化	持続可能で安定性のある農業経営が展開できる取り組みを進めます。	5	5	農政課
担い手、労働力の確保			後継者を育成、確保するため、研修の開催や活動、交流を促進します。	5	5	農政課 農業委員会	
商業		商業の振興に向けた支援	商業活動の活性化を促進するため、商工会をはじめとする組織の活動を支援します。 商業者の活性化をはかるため、空き店舗対策などを進めます。	5	5	商工観光課	29
工業、企業誘致		IC工業団地の拡張と、新たな企業の誘致	雇用の拡大が伴う企業の誘致に努めます。	4	4	商工観光課	31
観光		音更の魅力の活用、PR	より魅力ある観光地づくりを進めるため、環境整備、食、企画などに積極的に地域資源を活用します。	5	5	商工観光課	33
産業連携		農商工親連携の推進	新事業の創出を目的とした異業種間の交流や農商工親連携を進めます。 農畜産物の高付加価値化をめざし、産学官との連携による研究を進めます。 農畜産物や地場産品などの販売や食に接する機会を増やすため、新たに魅力を発信する拠点づくりに努めます。	4.5	4.67	産業連携課 商工観光課	35
重点施策の推進状況評価の平均				4.75	4.78		



評価区分	A 順調に進んでいる (4.50~5.00)	A
	B 概ね順調に進んでいる (4.00~4.49)	
	C 推進が必要 (3.00~3.99)	
	D 更なる推進が必要 (0~2.99)	

4

5

重点項目1は、前年度から0.03ポイント推進状況が後退した。企業誘致について、大規模の区画を必要とする企業ニーズに応えるためのIC工業団地の拡張が課題となっている。魅力の活用や農商工親連携の推進について、地域イベントや景観、モール温泉を活用した商品開発などが図られているが、今後も関係機関・団体と連携して地域資源を活用し、音更・十勝川温泉の魅力発信に取り組んでいく必要がある。新たな魅力発信拠点づくりは、国から重点道の駅の指定を受け、施設整備に向けた検討を行っている。その他の施策については、順調に進んでおり、基幹産業の農業では安定した生産を確保し、強い農業基盤を構築するとともに、農商工親の連携や農畜産物の高付加価値化につながる取組を行っている。

6

評価結果	
------	--

第5期総合計画: 推進管理評価調書【施策(個表)】

1	施策	担当部署	重点
(1) 農業経営の安定化		2 農政課	◎

1-1 施策の進捗を把握する指標

3	目標指標名	説明
指標1	農業総生産額	「音更町農業概要」の農産および畜産を合わせた総生産額(TPPやEPA、FTAなどの貿易交渉による今後の農畜産物価格や経営所得安定対策への影響が不透明であり、農業総生産額については、金額による明示的な目標を掲げることが困難なため、文章表現とした。)

1-2 指標の推移

4	単位	26年度 (基準)	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 (実績)	31年度 (実績)	32年度 (実績)	32年度 (目標)
指標1	億円	207.1	286.4	227.4					H26以上
	特記事項	【H28年度】異常気象(6・7月の長雨・日照不足、8月の4連続台風襲来)により、基幹作物の小麦等が記録的な不作となり、農産分野の総生産額が大きく落ち込んだ。							

1-3 指標の推移に対する分析(基準年度から当該年度までの推移)

推移の分析	農産分野については、天候による影響を受けやすく、H27年度は記録的な豊作年であったが、H28は小麦をはじめ記録的な不作となった。 畜産分野については、生乳生産が堅調に推移する等、総生産額は増加傾向となっている。	5
-------	--	----------

2 施策の推進に向けた現在の取組状況と今後(4の事務事業を参考に記載)

6	施策の推進に向けた現在の取組(事務事業等) 状況	現在の取組状況を踏まえて、施策を推進するうえでの課題や必要となる取組
区分	評価	推進状況
28年度	5	農家経営の安定に向けて各種事業を着実に推進しており、中でも大豆の作付増への対応として産地パワーアップ事業への取り組み、また、生乳増産支援のための酪農生産基盤強化支援事業を実施している。
29年度		⇒
30年度		⇒
31年度		⇒
32年度		⇒
評価基準	5 順調に進んでいる(指標の推移等も踏まえ、施策に向けて、事務事業や関連する取組が順調に進んでいる) 4 ある程度進んでいる(施策に向けてある程度進んでいる) 3 遅れがある(施策に向けて、事務事業や関連する取組があまり進んでいない) 2 着手した程度(施策に向けて、事務事業や関連する取組が進み始めたばかりである) 1 未着手(未着手である)	

3 総合評価(1-3及び2をまとめて記載)

7	1次評価	2次評価
	農業総生産額のうち、約8割が農産部門を占めるために、天候の影響を受けやすいものの、今後も各施策を着実に実施し、農業経営の安定を図っている必要がある。	産地パワーアップ事業や経営所得安定対策事業の着実な推進により、施策の推進が図られている。本町は、天候の影響を受けやすい畑作物を生産する農家が多いことから、今後も各施策を着実に実施し、農業経営の安定と生産性の向上を図っている必要がある。

